地域密着型スポーツクラブの観戦者における重要度と満足度に関する研究
～Ｆリーグ所属府中アスレティック FC を事例として～
Research on importance and satisfaction of spectators in community-based sports clubs
-The case of Fuchu Athletic FC-

1K08B223-2 山崎祥大
主査　間野義之 先生　　副査　松岡宏高 先生

１．諸言

1990 年代半ば、景気の悪化により企業がスポーツから衰退した結果、多くの名門クラブチームが解散・廃止に追い込まれた。そんな中、J リーグが地域密着型経営という、企業に依存しない独自の経営に成功した。この結果、多くのクラブの運営形態が、これまでの企業による資金援助で運営されていた企業スポーツチームから、独自の経営を志向した地域密着型スポーツクラブへと変化した。地域密着型スポーツクラブは、地域貢献活動として地域の小学校を回り、そのスポーツの魅力を伝えることや、さまざまなイベントに参加して地域住民との接点を作る活動を積極的に行うようになった。現在では、地域の人々に、継続的に観戦に訪れてもらうことがチームの安定した収入につながるため、一度来場した観戦者の再観戦意図を高める努力が必要とされている。しかしながら、地域貢献活動は主に家族・子供を対象としたものであり、観戦者全体に同じような影響をもたらすとは限らない。大西 (2008) によると、観戦意図の主な要因は試合内容や価格の適正であり、地域貢献活動はそのまま観戦意図に直結するものであるとは言い切れない。

２．目的

Ｆリーグ所属の府中アスレティック FC では「府中市民の誇りとなる地域密着型サッカー/フットサルクラブ」というスローガンを掲げ、さまざまな地域貢献活動を行っている。このクラブを事例として、地域貢献活動を含む試合コンテンツの重要度・満足度を観戦同伴者ごとに分析し、地域貢献活動の影響、クラブの試合運営の今後の課題を明らかにすることを目的とする。

３．研究方法

2009 年 8 月 15 日、府中市立総合体育館で開催された、府中アスレティック FC 対バサジィ大分戦の 10 歳以上の観戦者 213 名を対象とし、入場時に調査票を他の配布物と一緒に配布した。ハーフタイムにスタッフが巡回して回収、もしくは退場時に回収箱を設置しての回収を行い、それぞれ回答者には府中アスレティック FC のグッズを贈呈した。その後、全体と同伴者の分類別で試合コンテンツの項目ごとに重要度・満足度の平均値を求め、IP(Importance Performance)分析を行った。

４．結果と考察

全体で IP 分析を行った結果、「ホームゲームの雰囲気・盛り上がり」の項目の重要度が高い一方、満足度が低い結果となり、取り組み課題に挙げられた。これに対し、地域貢献活動項目である「エスコートキッズ」「ハーフタイムショー」は、重要度は低いものの、満足度は高い結果となり、地域住民に試合の付加的なコンテンツとして受け入れられていることが分かった。重要度が低い点から、地域貢献活動は観戦意図に影響するわけではないかもしれないが、満足度が高い点から考えると、T.I.を高め、再観戦意図に大きく影響している可能性が大きくなった。また、試合後の混雑の緩和のため現在廃止されている「お客様のお見送り」の項目が重要度・満足度ともに高かったことから、形態を再検討しての復活が望まれることが示された。同伴者分類別でみると、「マッチデープログラム」は全体的に重要度が高い一方、一人での観戦者以外での満足度は低くなっており、一人での観戦者以外を意識したつくりに変える必要があるといえる。また、現在の「MC による場内アナウンス」は、一人観戦者のみ満足度が低くなっており、全体に受け入れられるために再検討が必要であると示された。今回の研究では、地域密着型クラブの行う地域貢献活動が T.I.を通して再観戦意図与える影響までは測定できなかったため、この点を今後明らかにしていく必要があるだろう。